

# ミルグレイン加工をするときのベース形状

リング等に後加工でミルグレインを施す場合には、「ミルグレインがどの位置に入るのか」ということを想定した断面形状にする必要があります。

「後加工なのでイメージ通りに自由にできる」と思われがちですが、実際には、イメージ通りにできるかどうかは、ベースの形状に大きく左右されます。

ついやってしまいがちなのは、「形の綺麗さ」「着け心地」に意識が向き過ぎて、断面を綺麗な甲丸にしてしまうということです(ワックスにしろ地金にしろ、途中段階で「お客様確認」を行う場合に特にやってしまいがちです)。

もしデザイン画で両側にミルグレインが入っているとしたら、甲丸にしてしまった時点でデザイン画通りの仕上がりにできない、と考えて頂いて差し支えありません。



図1

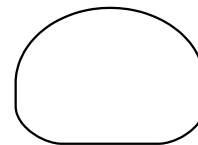


図2

具体的な例で考えてみましょう。

完成イメージとして図1の様なデザイン画を描いたとします。そして、ベースを図2の様な甲丸形状に作り直しました。

さて、このベースにミルグレインを入れると…

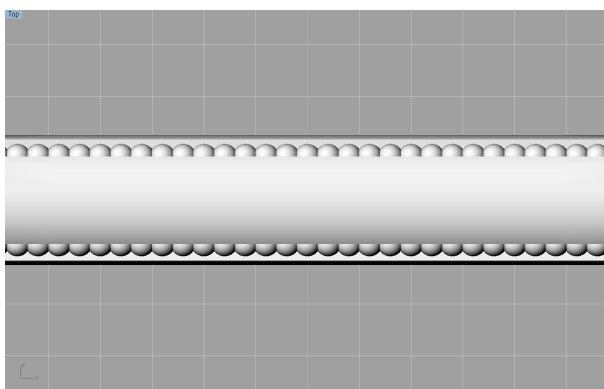


図3

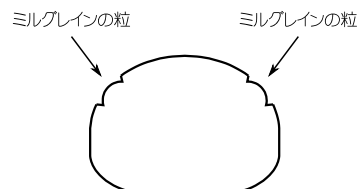


図4

おや…? ミルグレインがベースの両側に寄っておらず、その外側にミルグレインの下側の地金面が見えています。個々の粒の見え方も中途半端です。デザイン画とは雰囲気が違いますね。

何故この様なことになってしまうかという、断面で考えて頂くと一目瞭然です。

縁取りとしてのミルグレインは、基本的に断面の「肩」に当たるところに加工しますが、そもそも甲丸に肩はありません。そこで、肩に該当する位置に加工すると図4の様になる訳です。ミルグレインの下側の地金が見えますね。

粒を上に向けようとすると、より内側に寄ってしまいますし、逆に外側にしようとすると、粒が見えなくなります。

もちろん外側にずらして、更に粒を上に向けるとすることも、加工上は可能ですが、ミルグレインの上側に被ってくる地金を大きく削り落とすことになる為、それはそれで想定したデザインとは大きく異なってしまうでしょう。

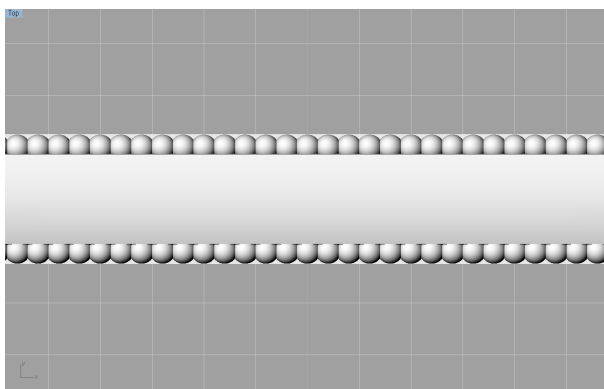


図5

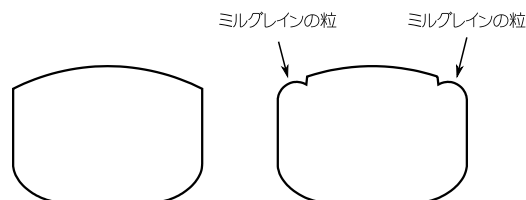


図6

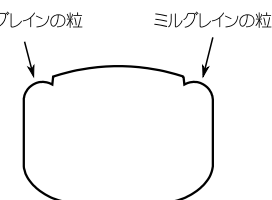


図7

ベースの縁の部分にミルグレインを入れたい場合には、図6の様に肩の立った断面形状、つまり「平甲丸」にする必要があります。

この場合には図7の様に粒を作ることができる為、図5の通りデザイン画通りの仕上がりにすることができるのです。